



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年1月30日

上場会社名 株式会社バッファロー
コード番号 3352 U R L <https://www.buffalo.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 坂本 裕二
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 管理本部長 (氏名) 日下部 直喜 T E L 048-227-8860
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	10,550	13.4	533	29.7	568	30.6	372	37.4
	9,302	9.6	411	15.9	435	10.2	271	9.9

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 372百万円 (37.5%) 2025年3月期第3四半期 270百万円 (9.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	158.95	—
	115.67	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
2026年3月期第3四半期	百万円		百万円		%	
2025年3月期	10,194		6,429		63.1	
	9,108		6,197		68.0	

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 6,429百万円 2025年3月期 6,197百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2026年3月期(予想)	—	30.00	—	35.00	65.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

配当予想の修正につきましては、本日(2026年1月30日)公表いたしました「2026年3月期の期末配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 -社 (社名)、除外 -社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3Q	2,345,874株	2025年3月期	2,345,874株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	2,464株	2025年3月期	2,444株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3Q	2,343,411株	2025年3月期 3Q	2,343,430株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済の減速や米国の関税政策の影響により輸出の伸び悩みが見られたものの、設備投資の堅調な増加を背景に緩やかな回復基調で推移しました。国内個人消費につきましても、雇用・所得環境の改善とともにインフレ傾向が一服し、娯楽サービス消費等を中心を持ち直しの兆しを見せております。一方で、長期化するウクライナ情勢や、日中の外交問題に端を発したインバウンド需要の先行きに対する懸念などから、今後の先行きにつきましては不透明な状況が続いております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、2024年5月9日に公表いたしました「中期経営計画2024」のもと、厳しさを増し急速に変化し続ける経営環境を乗り越えるための経営基盤の確立と更なる企業成長を目指すとともに、生活インフラである車関連事業及び外食事業を通じ地域社会に寄与すべく営業活動を行ってまいりました。

当社グループのセグメントごとの業績は、次のとおりであります。

<オートバックス事業>

当第3四半期連結会計期間末におけるオートバックス事業の店舗数は、15店舗であります。当第3四半期連結累計期間中における店舗の新設及び廃止はございません。

オートバックス事業が属する国内カー用品市場の環境につきましては、新車販売台数が前年同期を上回る背景のもと、タイヤ・オイル・バッテリーを中心とした消耗品の販売も底堅く推移しました。

このような環境の中で当社グループは、「クルマのことならオートバックス」の実践を通じ、お客様への安全と安心の提供、顧客満足度の更なる向上に取り組んでまいりました。接遇・接客力の強化、技術力を備えた専門スタッフの育成に注力するとともに、恒常化する人手不足のなか人材確保に向けての働きやすい職場の構築を図るべく、2025年4月より店舗の勤務形態に週休3日制を導入するなど、グループ内における労働環境・ワークライフバランスの改善を進めております。販売施策といたしましては、自動車の買い替えサイクルの長期化を背景に、「安心と信頼のオートバックス車検」による車検整備の拡販に努めてまいりました。メンテナンス需要の高まりとともに、スマホアプリからのピット作業予約といった利便性の向上も有効に寄与し、車検の顧客件数は前年同期を大きく上回ることとなりました。また、中期的に成長を続けてきたボディーコーティングやヘッドライトコーティング等、車の「美観」に関わるサービスメニューにつきましても、有効的な設備投資のもと、引き続き需要の獲得に注力しその実績を年々伸ばし続けるなど、ピット・サービス部門は中期経営計画のもと、様々な施策への取組みにより增收を継続しております。タイヤ販売につきましては、低価格帯商品のラインナップを強化する一方で、サイズ大型化のトレンドへの対応を図るなど、競合店及びネット販売に負けない「安さと豊富な品揃え」による魅力的な売場展開に努めた結果、冬タイヤの需要減少を受けながらも販売数量・金額実績とも前年同期比で上回ることとなりました。また、オイル・バッテリー部門につきましても、Web予約システムによるオイル交換の即日作業予約などにより受け入れ態勢の強化が進み、オイル・バッテリーとも売上が増加しました。車販売部門につきましては、オークション市場における売上台数が前年同期を下回ったことから、減収となっております。

これらの取り組みにより、オートバックス事業の売上高は9,003,821千円（前年同期比5.5%増）となりました。

<飲食事業>

飲食事業が属する外食業界は、来店客数が前年同期を上回るなど景況は改善傾向にありますが、インバウンド需要の地域的な偏り等の要因により業績の二極化が進んでおり、また、原材料価格の高騰、物価高による節約志向の強まり、人材コストの上昇の影響から、依然として厳しい経営環境が続いております。

当社グループは、子会社である「㈱バッファローフードサービス」において、焼肉ライクのフランチャイジーとして運営を行ってきた『焼肉ライク』とともに、イタリアンレストラン『PISOLA』をチェーン展開する㈱ピソラとのフランチャイズ契約により、2024年4月に当社第1号店「PISOLA三郷店」を開設いたしました。

『PISOLA』は前連結会計年度末までに3店舗を展開しており、2025年5月15日に「PISOLA熊谷月見町店」、2025年8月1日に「PISOLA戸田公園店」を新たにオープンし、更なる事業規模拡大を目指しております。

『PISOLA』は、「南国（島）のリゾートホテルのダイニング」を空間コンセプトに、食事をするだけではなく「大切なひとと記憶に残るひととき」をお過ごしいただける癒しの空間を創出する「今までのファミレスにはなかった価値」の提供を志向しており、「焼肉のファストフード」をコンセプトとして展開している『焼肉ライク』とともに、新たな客層の獲得に取り組んでまいります。

これにより当第3四半期連結会計期間末における飲食事業の店舗数は、『PISOLA』が2店舗増加し5店舗、『焼肉ライク』は5店舗の計10店舗となっております。

当社グループといたしましては、新たに営業を開始した『PISOLA』業態店舗の周辺地域への認知向上を図るとともに、既存店舗につきましては、特定技能外国人の採用をはじめ、効率的な人員の配置、食材管理の徹底によるロスの削減等により、収益構造の改善に取り組んでまいります。

これらの取り組み及び店舗数増加の影響により、飲食事業の売上高は1,546,772千円（前年同期比100.9%増）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高10,550,593千円（前年同期比13.4%増）、営業利益533,183千円（同29.7%増）、経常利益568,267千円（同30.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益372,473千円（同37.4%増）となりました。

セグメント別の売上高は次のとおりであります。

セグメント	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
オートバックス事業	8,532,767	91.7	9,003,821	85.3	11,037,083	90.6
飲食事業	769,876	8.3	1,546,772	14.7	1,148,571	9.4
合計	9,302,643	100.0	10,550,593	100.0	12,185,655	100.0

各品目別の売上高及び構成比は次のとおりであります。

品目	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
ピット・サービス工賃	2,638,546	28.4	2,957,060	28.0	3,454,514	28.3
タイヤ・ホイール	2,323,359	25.0	2,471,491	23.4	2,937,776	24.1
飲食	769,876	8.3	1,546,772	14.7	1,148,571	9.4
アクセサリー・メンテナンス用品	1,345,559	14.5	1,343,891	12.7	1,756,240	14.4
オイル・バッテリー	853,129	9.2	929,105	8.8	1,131,274	9.3
車販売	660,902	7.1	658,075	6.2	845,781	6.9
カーエレクトロニクス	668,806	7.2	613,933	5.8	851,008	7.0
その他	42,462	0.5	30,262	0.3	60,488	0.5
合計	9,302,643	100.0	10,550,593	100.0	12,185,655	100.0

(注) 1. 当第3四半期連結会計期間末における飲食事業の店舗数は、『PISOLA』5店舗、『焼肉ライク』5店舗の10店舗となっております。

2. 各品目の主な内容は、次のとおりであります。

品目	主な内容
ピット・サービス工賃	オイル交換、タイヤ交換、各種用品取付、板金・塗装、車検・整備、ボディコーティング、ヘッドライトコーティング、車内クリーニング
タイヤ・ホイール	夏用タイヤ、冬用タイヤ、アルミ・スチールホイール
飲食	店舗における飲食サービス
アクセサリー・メンテナンス用品	チャイルドシート、キャリア、チェーン、車内アクセサリー、ドレスアップ用品（ステアリング、シート、ランプ等）、チューンナップ用品（エアロパーツ、マフラー、サスペンション等）
オイル・バッテリー	国産・輸入エンジンオイル、国産車用・外車用バッテリー
車販売	新車及び中古自動車
カーエレクトロニクス	カーナビゲーション、カーTV、ドライブレコーダー、DVD・CDプレーヤー、スピーカー、アンプ、ETC車載器、接続具等

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は6,483,980千円となり、前連結会計年度末に比べ812,859千円（前連結会計年度末比14.3%）増加しました。これは主に現金及び預金の減少106,611千円に対して、売掛金553,470千円、商品290,759千円が増加したことによるものであります。固定資産は3,710,492千円となり、前連結会計年度末に比べ273,060千円（同7.9%）増加しました。これは主に差入保証金20,218千円及び投資その他の資産のその他に含まれる繰延税金資産15,674千円の減少に対して、有形固定資産が318,677千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は10,194,472千円となり、前連結会計年度末に比べ1,085,920千円（同11.9%）増加しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は2,184,167千円となり、前連結会計年度末に比べ412,830千円（前連結会計年度末比23.3%）増加しました。これは主に短期借入金279,410千円及び流動負債のその他に含まれる前受金50,003千円の減少に対して、買掛金506,698千円、流動負債のその他に含まれる未払金125,903千円及び年内返済予定の長期借入金116,064千円が増加したことによるものであります。固定負債は1,580,929千円となり、前連結会計年度末に比べ441,101千円（同38.7%）増加しました。これは主に長期借入金384,178千円、退職給付に係る負債35,826千円及び資産除去債務34,957千円が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は3,765,097千円となり、前連結会計年度末に比べ853,932千円（同29.3%）増加しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は6,429,374千円となり、前連結会計年度末に比べ231,987千円（前連結会計年度末比3.7%）増加しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上及び配当金の支払の結果として利益剰余金が231,868千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は63.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績は、ピット・サービス部門、タイヤ部門の販売が堅調に推移し、計画に対して順調に進展いたしました。しかしながら、通期業績予想については、冬季商品の販売が鈍化傾向にあり、今後の業績に与える影響が不確実なため2025年5月9日に公表いたしました通期業績予想から変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,382,704	3,276,092
売掛金	730,513	1,283,984
商品	1,127,968	1,418,728
原材料	9,244	14,421
その他	420,689	490,753
流動資産合計	5,671,121	6,483,980
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,594,396	3,015,940
減価償却累計額	△1,453,950	△1,541,716
建物及び構築物（純額）	1,140,445	1,474,224
土地	686,694	686,694
建設仮勘定	83,545	—
その他	951,433	1,074,456
減価償却累計額	△593,469	△648,048
その他（純額）	357,964	426,407
有形固定資産合計	2,268,649	2,587,327
無形固定資産	6,562	5,396
投資その他の資産		
差入保証金	617,853	597,635
その他	564,150	539,918
貸倒引当金	△19,785	△19,785
投資その他の資産合計	1,162,218	1,117,768
固定資産合計	3,437,431	3,710,492
資産合計	9,108,552	10,194,472

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	423,030	929,729
短期借入金	279,410	—
1年内返済予定の長期借入金	69,588	185,652
未払法人税等	105,848	103,928
賞与引当金	157,886	82,780
その他	735,573	882,077
流動負債合計	1,771,337	2,184,167
固定負債		
長期借入金	240,150	624,328
退職給付に係る負債	637,555	673,381
資産除去債務	125,121	160,079
その他	137,001	123,140
固定負債合計	1,139,828	1,580,929
負債合計	2,911,165	3,765,097
純資産の部		
株主資本		
資本金	653,084	653,084
資本剰余金	627,597	627,597
利益剰余金	4,916,837	5,148,705
自己株式	△117	△142
株主資本合計	6,197,402	6,429,245
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△14	129
その他の包括利益累計額合計	△14	129
純資産合計	6,197,387	6,429,374
負債純資産合計	9,108,552	10,194,472

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	9,302,643	10,550,593
売上原価	4,538,109	4,755,380
売上総利益	4,764,534	5,795,213
販売費及び一般管理費	4,353,451	5,262,029
営業利益	411,083	533,183
営業外収益		
受取利息及び配当金	6,878	14,449
受取手数料	6,576	6,089
受取保険金	7,798	21,254
受取協賛金等	5,428	3,502
その他	19,590	19,812
営業外収益合計	46,273	65,109
営業外費用		
支払利息	8,855	13,281
貸倒引当金繰入額	5,866	—
固定資産圧縮損	—	12,145
その他	7,370	4,597
営業外費用合計	22,092	30,025
経常利益	435,264	568,267
税金等調整前四半期純利益	435,264	568,267
法人税、住民税及び事業税	109,250	180,185
法人税等調整額	54,960	15,608
法人税等合計	164,211	195,793
四半期純利益	271,052	372,473
親会社株主に帰属する四半期純利益	271,052	372,473

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	271,052	372,473
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△140	144
その他の包括利益合計	△140	144
四半期包括利益	270,912	372,617
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	270,912	372,617
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上額 (注) 2
	オートバックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,532,767	769,876	9,302,643	—	9,302,643
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	—	—	—	—
計	8,532,767	769,876	9,302,643	—	9,302,643
セグメント利益又は損失 (△)	745,393	△59,364	686,028	△274,945	411,083

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△274,945千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結財務 諸表計上額 (注) 2
	オートバックス 事業	飲食事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	9,003,821	1,546,772	10,550,593	—	10,550,593
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	—	—	—	—
計	9,003,821	1,546,772	10,550,593	—	10,550,593
セグメント利益又は損失 (△)	892,296	△40,123	852,173	△318,989	533,183

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△318,989千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	124,553千円	180,791千円